

情報セキュリティ

情報科学の世界II

2020年度

只木 進一（理工学部）

セキュリティインシデントは他人事ではない

- ▶ 個人情報の漏えい
 - ▶ 民間企業の顧客情報の漏えい
 - ▶ 公的機関からの個人情報漏えい
 - ▶ 特定個人情報：マイナンバー
- ▶ 信用してアクセスしたサービス
 - ▶ 乗っ取られていて、不正プログラムを押し込まれる

セキュリティインシデントは他人事ではない

- ▶ 個人のPCやスマートフォンからの情報漏えい
 - ▶ 自分の情報だけでなく、他人の情報
- ▶ 様々なサービスのID
 - ▶ 乗っ取り、なりすまし
- ▶ 自分のデバイスが、攻撃の足場に使われる

情報セキュリティ10大脅威(ICT threats)2020

順位	個人	組織
1	スマホ決済の不正利用	標的型攻撃による情報流出
2	フィッシングによる個人情報等の詐取	内部不正による情報漏えい
3	クレジットカード情報の不正利用	ビジネスメール詐欺による金銭被害
4	インターネットバンキングの不正利用	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃の高まり
5	メールやSMS等を使った脅迫・詐欺の手口による金銭要求	ランサムウェアによる被害

個人情報漏洩事案

- ▶ 2017/6/20 佐賀銀行
 - ▶ 行員が窃盗。共犯者へ大口顧客情報(169人)を漏えい
- ▶ 2016 佐賀県教育委員会
 - ▶ 1万人の生徒の住所、氏名、電話番号、成績など
 - ▶ 県内の少年、高校生が関与
- ▶ 2015/5/28 日本年金機構
 - ▶ 標的型攻撃
 - ▶ 150万件以上の個人情報漏えい

▶ 2014/7/9 ベネッセ

- ▶ 760万件の顧客情報を漏洩
- ▶ 子供と保護者の氏名、住所、生年月日など
- ▶ システムを委託していた系列会社へ派遣されていた社員が持ち出し

➤ 2014/4/18 東京医科大学

- 脳神経外科手術 33例
- 氏名、性別、生年月日、検査データ
- 職員がUSBで持ち出し、紛失

個人情報・プライバシーとその管理

- ▶ **個人情報**：生存している個人を特定する情報
 - ▶ 氏名や住所は重要な要素だが、それだけではない
 - ▶ 個人の属性から特定できる場合がある
 - ▶ 職業、出身大学、電話番号などの組み合わせ

▶ プライバシー

- ▶ 以下の三つの要件を満たす
 - ▶ 個人の私的生活の事実
 - ▶ 公知でないもの
 - ▶ 公開を望まない
- ▶ 要するに、本人の属性に関する知られたくないもの

プライバシーの例

- ▶ 図書館は利用者の秘密を守る
 - ▶ 何を読んだか、借りたか
 - ▶ 図書館の自由に関する宣言
 - ▶ <http://www.jla.or.jp/library/gudeline/tabid/232/Default.aspx>
- ▶ 購買履歴
- ▶ 病歴、投薬履歴
- ▶ 友人関係

情報セキュリティの構成要素

- ▶ 機密性： confidentiality
 - ▶ 秘密であること
 - ▶ 制限された人だけが利用できる
- ▶ 完全性： integrity
 - ▶ 正式で正しいものであること
- ▶ 可用性： availability
 - ▶ 必要なときに利用できること

- ▶ 三つの要素のバランスが重要
 - ▶ 情報システムとしてのバランス
 - ▶ システムの目的に合致しているか
 - ▶ 情報システムの運用の観点
 - ▶ システムとして運用できるのか
 - ▶ 費用と効用の評価
- ▶ 公開情報にもセキュリティがある

情報セキュリティの対策

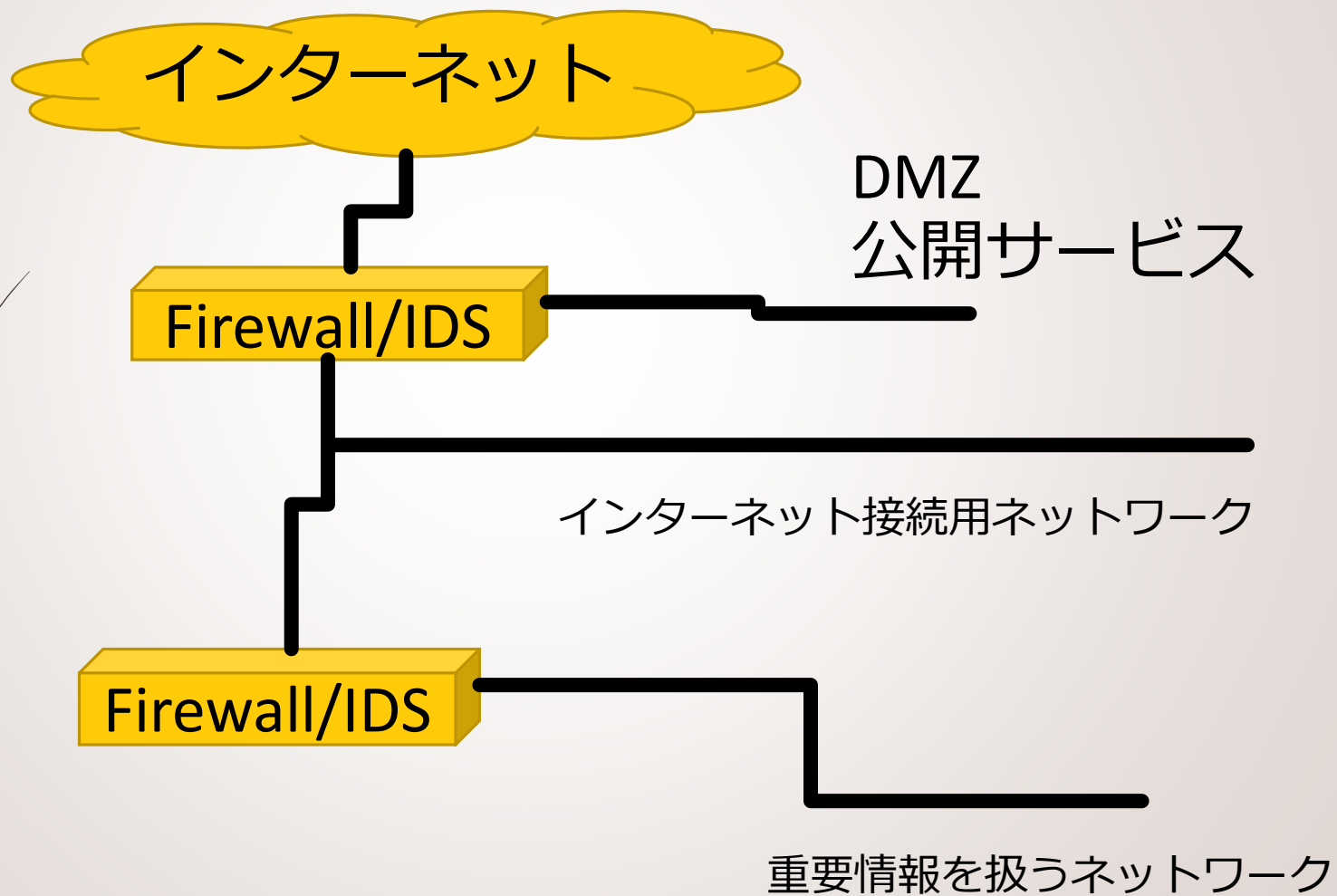
- ▶ 問題が発生しないための対策
 - ▶ 不正通信が起こらないように
 - ▶ ウィルスが入り込まないように
 - ▶ 不正侵入が起こらないように
- ▶ 問題の発生を想定した対策
 - ▶ 不正通信の確認と遮断の方法
 - ▶ 重要情報の暗号化
 - ▶ 重要情報の分散

- ▶ 問題が発生した後の対策
 - ▶ 緊急退避
 - ▶ 連絡・通報・責任体制
 - ▶ 影響範囲の迅速な確認方法
 - ▶ 適切な公表
- ▶ 問題の再発を防ぐ対策
 - ▶ 原因の究明と対策
 - ▶ リスクとコストの再評価

技術的対策：通信路の対策

- ▶ ネットワークの分離
 - ▶ 重要情報を持つネットワークを切り離す
- ▶ Firewall
 - ▶ 送受信元、サービスで通信を制限
- ▶ IDP(Intrusion Detection System)
 - ▶ 侵入の兆候を検知して遮断

ネットワークの構成例



技術的対策：ウィルス対策

▶ 通信路

- ▶ ウィルス付メールの遮断
- ▶ 不正なWebサイトへ誘導するメール遮断
- ▶ 不正な活動の検知と遮断

▶ クライアント

- ▶ ファイルのフィルタリング
- ▶ 不正な活動の検知と遮断

技術的対策：重要情報の送受信を暗号化

- ▶ Webでの重要情報送受信



<https://www.cc.saga-u.ac.jp/#gsc.tab=0>

- ▶ 無線通信の暗号化

技術的対策：本人確認

- ▶ ユーザ名とパスワードによる認証
- ▶ 認証の3要素
 - ▶ 記憶：パスワード、秘密の言葉
 - ▶ 持ち物：ICカード、スマートフォン
 - ▶ 本人そのもの：指紋、虹彩、静脈
- ▶ 多要素認証
 - ▶ 複数の要素の組合せ
- ▶ 証跡管理

非技術的対策

- ▶ 教育・研修
 - ▶ 情報セキュリティの重要性
 - ▶ 対策の必要性
- ▶ 訓練
 - ▶ インシデント発生時の対応
- ▶ 体制整備

個人としての安全対策： Webの利用

- ▶ 重要情報をできるだけ送らない
 - ▶ 正しいサイトであることの確認：証明書
 - ▶ 暗号化
 - ▶ 本当に必要なのか
- ▶ 不正サイトからの攻撃を防ぐ
 - ▶ 不要なサイトへアクセスしない
 - ▶ 見ただけでウィルスダウンロードの危険性

個人としての安全対策： ウィルス・フィッシング対策

- ▶ ウィルス対策ソフトの導入
 - ▶ ウィルスパターンの更新
 - ▶ 定期的な全体スキャン
- ▶ 危険なメール
 - ▶ 知らない人からの「緊急」「重要」メール
 - ▶ 送信元のアドレスがおかしい
 - ▶ リンク先のアドレスがおかしい

個人としての安全対策： パスワードの管理

- ▶ 重要なサービスのパスワードを他のサービスと共有しない
 - ▶ 大学のメールアドレスとパスワードの組を外部サービスで使わない
- ▶ 他人に教えない
- ▶ 危ないと思ったら変更する

個人としての安全対策： データを失わない

- ▶ バックアップをする
 - ▶ CDやBD
 - ▶ USB接続のポータブルHD
 - ▶ クラウドストレージ

何か変だと思ったら

- ▶ 総合情報基盤センターに相談する
- ▶ チュータに相談する
- ▶ 警察に相談する